



中等部

Junior High School

困っている方々の 支えに

中等部3年 天野 康太

今年の中等部のクリスマス礼拝は、新型コロナウイルス感染症の対策のため大幅に縮小することになってしまいました。クリスマス礼拝のメインであったページェントはなくなり、ハンドベルや聖歌隊も活動を縮小するそうです。僕の友達にもクリスマス礼拝を楽しみにしていた人がたくさんいました。クリスマス礼拝の縮小が決まった時、僕はマタイによる福音書の7章の「求めなさい」という聖書箇所を思い出しました。この内容を簡単にまとめると「神様に求めれば、与えられる。だから人にしてもらいたいことを自分もする」となります。現在ほとんどの人が、この感染症が早くなくなってほしいと神様に願っているのではないのでしょうか。僕もその一人です。このような状況なので、僕はこの聖句のように、人に与えられるような人間になることがとても重要であると思いました。現在は感染症対策として、今までとは違う生活をしなければならないと思います。少しでも困っている方々への支えになれるように神様に祈りながら今年のクリスマスを迎えたいと思います。



オンライン礼拝

神様の励まし

中等部3年 町 諒花

今年1年を振り返ってみたとき、やはり一番に頭に浮かぶのは、コロナウイルスによる大きな影響だと思えます。いつ、誰に命の危険が及ぶかわからない中で、見えないウイルスというものに怯えながら生活するのは、多くの人にとって息苦しい状況だったはずですが、けれど、本当にそれだけだったでしょうか。私はそうは思いません。この1年で多くのことを考えさせられました。

今まで当たり前のように受けていた授業、何時間もかけていた部活動よりも、縮小された不自由な授業、短時間しかできない部活動の方が貴重に感じられる。それは何故かというと、コロナによって当たり前を私たちが失ったからだと思えます。だから、学校に行けることも、部活ができること自体もありがたいと思えます。

けれど、人の命が奪われてからはじめて、日常のありがたみに気づくのでは、もう遅いはずですが。何も起こらなくても、その日常が当たり前のような時でも、常に心に向けて幸せを感じられる人になりたいです。また、そんな人が少しでも多くなったらいいなとも思えます。そのことに気づけたのは、見えないところから神様が私を励まし、支えてくださっていたからではないかと感じました。



コロナ禍での無人の礼拝堂